

平成 28 年 9 月 15 日

浜田市議会議長 西田清久 様

産業建設委員会 委員長 笹田卓



### 産業建設委員会報告書

下記のとおり視察を行いましたので報告いたします。

#### 記

1. 期間 平成 28 年 8 月 22 日(月)～23 日(火)

2. 視察先及び調査事項

(1)山口県下関漁港市場

下関漁港市場高度衛生管理型荷市場について

(2)愛媛県八幡浜市水産物地方卸売市場

八幡浜市高度衛生管理型荷捌き所について

3. 参加者

産業建設委員会委員

笹田卓委員長 飛野弘二副委員長 原田義則委員 牛尾博美委員

牛尾昭委員 布施賢司委員 串崎利行委員

議会事務局 庶務係長 鎌原浩治

4. 視察先の説明担当者

(1)下関高度衛生管理型市場について

山口県下関水産振興局漁港整備室

室長 小村光弘

同上漁港整備室

主査 松永義文

浜田漁港高度衛生管理型市場の整備に関連して、先ず、特 3 漁港の仲間の先進地である下関漁港市場を視察した。下関漁港は、1942 年にほぼ現在の原型が完成。当時、東洋一と称された。1966 年に水揚げ量約 28.5 万トンで日本一となった。1973 年の漁港拡張に伴い、山口県が開設者となり現在に至っている。昨年の取扱量は、33,381 トン(全国 17 位)金額は 196 億円(10 位)平均単価は(586 円/kg)(4 位)である。なお、今回の整備費は 94 億円である。

下関漁港の特徴は、ふくを競る南風泊市場と観光機能をもつ唐戸市場、今回整備の中心となる漁港市場の三つから構成されている特徴のある市場形態である。今回の下関漁港、本港の整備は、既に H24 年に水産庁の直轄調査が終わり、H26～H27 年で基本、実施計画が完了し、H28 年度から、一部上屋を残し、増改築工事に入るという説明を受けた。詳細については、資料をいただいたので添付し、視察状況や現地視察については、写真を巻末に添付する。小村室長の説明によると、今回の荷捌き所建設にあたっては、いかに地元の意見を吸い上げるかという点と、市場管理費が増大する中で、いかに負担割合を軽減できるかという点について検討中であるとの報告であった。

#### ○視察先の視点を浜田市に生かす考察について

浜田市が母体となって工事を進める以上、浜田のこれまでのブランド化戦略が何の様に市場建設に生かされようとしているのか、チェック体制が必要であると考える。

#### (2)八幡浜市高度衛生管理型荷捌き所について

水産港湾課	課長	和田有二
	課長補佐	上甲立志
水産第一係長		萩森淳一
下水産課	課長補佐	宮岡昭彰

八幡浜市水産物地方卸売市場は、第 3 種漁港である。開設者は、市であり取扱量のピークは、S55 年の 47,751 トン、金額は S59 年の 146.8 億円である。直近の水揚げは、8,094 トン、金額は 40.6 億円で最盛期の三分の一以下である。八幡浜の基本設計は H21 実施設計は H23 年で共用開始が H25 年 4 月である。旧市場が老朽化したため、H14 年 3 月に八幡浜漁港振興ビジョンを策定し、水産庁の二分の一補助を受けて完成した。総工費は約 17 億円である。

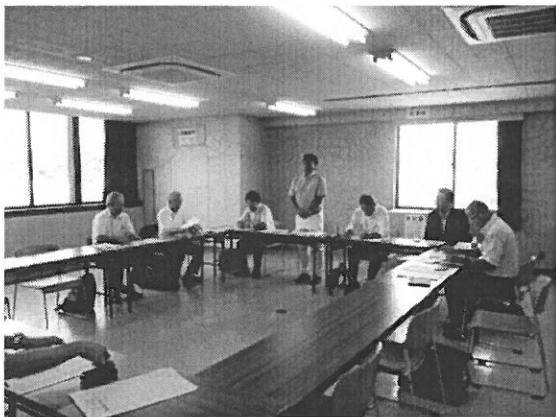
この市場の特徴は、2 階部分が中卸の事務所となっていて、一番はずれの部屋が魚食普及のための調理教室となっている。これは新しい市場の運営コストを抑えるための計画で、下水道料金も市場利用の中卸の利用面積によってカウントされるように決まっている。八幡浜市場は建設後、丸 3 年経過しており、今後の課題について 3 点に

ついてまとめてあり、非常に参考になった。この市場に隣接して、道の駅、みなとオアシスがあり中卸のドーヤ市場、ドーヤ食堂、みなと交流館、アゴラマルシェ、緑地公園などがあり、朝早くには大勢の高齢者が散歩やラジオ体操をしており、我々のような訪問者に温かい接遇をしてくれたのが印象的であった。なお、詳細な資料と視察写真は巻末に添付した。

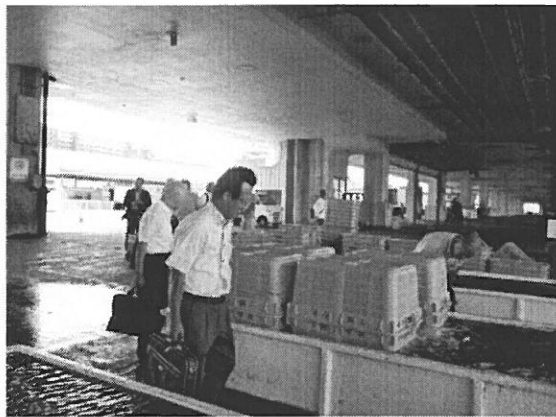
## 5. 視察先の支店を浜田市に生かす考察として

ここは、建設後、既に3年経過し課題としてまとめてあった。それによると、閉鎖式シャッターのスライダー方式はダメで横開きの開閉式がいい。衛生管理に取り組むためコスト増への対応。関係者の衛生管理意識希薄への対応などである。先進地の取り組みを後発者として十分検討し、あわせて地元生産者の意向を最大限汲み上げることが一番重要であるという結論に至った。

### 下関高度衛生管理型市場



事業説明の様子



市場内見学

### 八幡浜市高度衛生管理型荷捌き所



荷捌き所にて



荷捌き所内見学